

# 洛窓会 東京支部活動状況

2017年10月28日  
H29年度 東京支部代表幹事  
日立製作所 堀 嘉成(50回卒)

## 平成27年度 東京支部総会報告

### 1. 開催状況

日時： 2017年7月20日(木)

第一部 総会・講演会 16:00~17:45

第二部 懇親会 18:00~20:00

場所： 日立目白クラブ (東京都新宿区下落合2-13-28)

出席者数： 総会 69名、懇親会 77名、延べ 79名

京都からご出席いただいた以下の先生方を含む。

東谷 公 京都大学名誉教授・洛窓会会長

河瀬 元明 京都大学教授(2017年度専攻長)

前 一廣 京都大学教授

宮原 稔 京都大学教授

### 2. 総会

#### 1) 洛窓会東京支部長挨拶

サントリーホールディングス(株)専務取締役(36回卒)小嶋 幸次 様

総会開会の挨拶とともに、本年度総会参加への謝意を述べられた。また、国内外の政治経済の状況が視界不良な中、Oxfordが選んだ2016年のキーワードが“Post-truth”であったことを紹介された。Post-truthとは、客観的な事実よりも感情的な出来事が世論を動かす状況を言う。一方、化学工学を学んだものは、客観的な事実に基づいて、社会に意義のあるイノベーションを行うことを得意とするため、このような状況下での活躍が期待されるとのこと。また、洛窓会には、多才な方が多いため、洛窓会の取り組みを通して交流を深めて頂きたい旨述べられた。



#### 2) 講演会

##### ①「AI (IBM Watson) ビジネスでの化学工学エンジニアの貢献」

日本アイ・ビー・エム株式会社 (52回卒) 永田 悟 様



今話題のAIであるIBM Watsonについて、開発の背景、適用事例についてご紹介頂いた。

開発の背景として、我々が取り扱うデータ量が飛躍的に増加しており、その中でも映像、自然言語などの非構造化データの増加が見込まれることがある。これらのデータは次世代の天然資源となるが、原油と同様、精製しないと使えない。そのため、これらの非構造データを処理するコグニティブコンピューティングが重要であり、Watsonはそのひとつであるとのこと。

自然言語処理ができるWatsonの適用例は多く、みずほ銀行のコールセンターでの自動応答、東大医科研でのがん治療の論文からの情報検索、医療保険支払い査定への支援など様々な分野で利用されている。ただし、Watsonは、大量のデータに基づく帰納的な判断であり、化学工学の論理に基づいた演繹的な手法とは異なる。そのため、両者の協業・コミュニケーションが重要となっている。永田様は、住友化学、Aspenテックを経て、2015年にIBMに移られた経歴を持ち、現在、石油化学分野へのWatson導入のコンサルティングをされている。まさに、化学工学を学んだ技術者がAIビジネスに貢献している一例であり、非常に興味深いご講演であった。

## ②「強混合マイクロミキサによる核生成制御に基づくナノ粒子合成」

京都大学 大学院工学研究科 化学工学専攻 (42回卒) 宮原 稔 教授

強混合マイクロミキサを用いたナノ粒子合成について、そのメカニズムと応用事例をご紹介頂いた。従来のバッチ法では混合が不均一であり、粒子径の揃ったナノ粒子を合成することは困難であったが、ミクロンサイズの流路内で試薬の混合を行うマイクロミキサを使用することで、混合性能および伝熱性能を飛躍的に向上させることができ、また核生成場と反応場を分離することで核生成、粒子形状の制御が可能となった。また、マイクロミキサを使用した粒子合成で大きな課題となっている流路閉塞に対しては、前教授を中心に開発された中心衝突型の K-M ミキサを使用することで流路の閉塞なく、ナノ粒子を合成できるとのことであった。マイクロリアクタによるナノ粒子合成のメカニズムを分かりやすくご紹介いただき、さらに、Ni ナノ粒子合成、金ナノシェル合成などの具体的事例を複数ご説明いただくなど、マイクロリアクタの有用性についてご報告いただいた。これまでの合成手法とは全く異なる技術であり、化学の世界を変えうる可能性を秘めた革新的な内容のご報告であった。また、宮原教授の顔の変遷写真なども拝見でき、研究内容はもちろん先生のユニークなお人柄もうかがえるととても面白く、活気のあるご講演であった。



## 3) 京都大学と化学工学教室の近況

京都大学 大学院工学研究科 化学工学専攻 (47回卒) 河瀬 元明 教授



京都大学及び化学工学教室の近況について、ご説明頂いた。京都大学の近況では、6月に指定国立法人に指定されたこと、吉田キャンパスや、京大病院が様変わりしていることを紹介頂いた。また、高校生が一定期間京大に通い研究を進める ELCAS という人材育成プロジェクト、スーパーグローバル大学事業等についてご紹介頂き、化学工学教室もこれらのプロジェクトに参加・貢献している様子を伺うことができた。

化学工学教室の近況としては、田門先生が定年を迎えられるなどの人事異動や、化学工学教室への配属状況について紹介があった。他大学では、化学工学の人气が低迷しているなか、京大では、化学系の中の人気コースであるとのこと。コース選択前の説明会で化学工学の特徴を丁寧に説明するなど、先生方のご尽力の賜物と思われる。また、最後に堀口靖之氏より、化学工学教室に寄付を頂いたことも紹介された。いずれのお話も、河瀬先生らしく、ユーモアたっぷりにお話しされ、大変楽しく拝聴することができた。

## 4) 話題提供「SCE・Net の紹介」

ISO クリエイト (25回卒) 長安 敏夫 様

SCE・Net「シニアケミカルエンジニアズネットワーク」についてご紹介頂いた。SCE・Net は、化学工学会の中の一組織であり、現在の会員は101名、うち11名が洛窓会会員とのこと。「シニアケミカルエンジニアの経験と絵知恵で社会に貢献」を活動理念とし、業務受託・出版・執筆・公開講座といった活動を実施している。SCE・Net への入会はもちろん、2ヶ月に1回実施している技術懇談会・交流会は、会員以外も参加可能である。興味のある方は、ご連絡頂きたいとのことであった。



総会の様子

### 3. 懇親会

東谷 公 会長           :       ご挨拶ならびに乾杯のご発声  
定岡 紀行               :       代表幹事会社挨拶（メッセージ代読）  
池田 英雄 様           :       次回代表幹事会社挨拶

洛窓会会長の東谷先生のご挨拶と乾杯のご発声で開会した。本年度は、新しい試みとして、懇親会の最初の 20 分間を自己紹介タイムとし、テーブル単位で自己紹介をして頂いた。しばらく歓談の後、幹事会社代表として、日立製作所の定岡の挨拶（堀によるメッセージ代読）の後、次年度の代表幹事の三菱ケミカル(株)の池田様よりご挨拶を頂いた。最後は、恒例の琵琶湖周航の歌を合唱し、お開きとした。



洛窓会会長 東谷先生



三菱ケミカル 池田氏



自己紹介の様子

### 4. 総評

総会、懇親会には、合わせて 79 名の方にご参加頂いた。平均的な参加人数ではあったが、懇親会費を低く設定した 2008 年以降の卒業生の参加者は 3 名と少なかった。若手の参加率向上が今後の課題である。

運営面での試みとして、受付業務のスタッフ（2 名）を外部からの派遣者でまかなった。おかげで、総会当日、代表幹事会社のスタッフが 3 名しか都合がつかない状況でも、なんとか総会を運営できた。一部の仕事を外部に委託することで、幹事会社の若手の負担が軽減し、総会・懇親会を楽しんでもらえると思われるため、今後もうまく活用していきたい。

また、懇親会での新しい試みとして、テーブル単位の自己紹介を実施した。結果は予想以上に好評であり、「普段は話すきっかけがない同窓生と話げできた」「初参加で知り合いも少なかったが、楽しく過ごせた」など、多数の方からコメントを頂いた。このような同窓生間の交流を深める企画については、今後も継続していきたい。

### 5. 会計報告

本年度は、日立目白クラブを会場として利用したため、総会及び懇親会費用を抑えることができた。例年に比した支出増加分としては、大型スクリーンのレンタル、受付業務の外注があるが、いずれも比較的安価なところが見つかったため、大きな支出にはならなかった。今後も支部総会が盛会となるよう、工夫しながら運営していきたい。

### 6. 最後に

支部総会開催にあたり、遠路ご参加を賜りました東谷先生、前先生、宮原先生、河瀬先生には、心よりお礼を申し上げます。また、支部総会開催には前幹事長ならびに本部庶務・会計・名簿幹事の蘆田先生・渡邊先生・引間先生、支部幹事会社代表の方々には多大なご助力・アドバイスを頂戴しました。感謝いたします。

以上



懇親会



懇親会



琵琶湖周航の歌を合唱